

2023年12月26日

土壌医の会 通信 第15号



・優良土づくり推進活動表彰

農林水産省農産局長賞に

金原伸大さん

・事業体土壌医の会ご紹介コーナー

「クボタ土壌医の会」さん

・土壌医♡活躍中：和田美由紀さん

・地域重要問題研究会

・土づくり推進フォーラム

土壌医の会全国協議会第7回全国交流大会

2023年11月28日 全水道会館

～優良土づくり推進活動表彰～

今年度の農林水産省農産局長賞には、北海道立農業大学校にて農業者向けの研修業務を担当されている普及指導員の金原伸大さんの取り組みと成果が選ばれました。

表彰式の後に、金原さんをはじめとする7人の受賞者全員の成果発表が行われました。紙面の関係で詳しい内容をお知らせできないのがとても残念ですが、それぞれの地域で起こっている様々な問題に真摯に向き合い、親身になって改善に導く過程と、その時の熱い思いが、どなたからも伝わってきました。地域の頼れる土壌医さんとして、既に活躍中の皆さんですが、これからはますますご躍進いただきたいと思います。

優良土づくり表彰の受賞者の皆さんと受賞された取り組み内容は以下の通りです（敬称略）。

★農林水産省農産局長賞（最優秀賞）

・金原 伸大（北海道立農業大学校 土壌医）

「新規参入者への有機大豆栽培支援」

★日本土壌協会会長賞（個人部門）

・五十嵐 学（株式会社 新進 土壌医）

「レタスハウスでの塩類集積改善」

・小林 正義（土壌医）

「福島県東西しらかわ農協イチゴ部会の土壌における問題点を探る」

★土壌医の会全国協議会会長賞（個人部門）

・柴田 敏光（札幌土壌医の会 土壌医）

「春まき小麦の収量・品質改善の実現」

・高倉 克弥（JA とぴあ浜松 営農生産部 営農指導課 土壌医）

「肥料価格高騰に対応した新肥料の開発・販売」

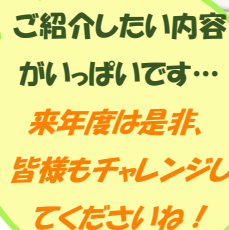


ライブ配信でも、
たくさんの皆様のご視聴がありました。
SNSでの瞬時の反応、
どうもありがとうございました。

・両総土壤医の会

・信州土壤医の会

「農業高校を対象とした土づくり実習及び講師活動」



9月27日（水）、土壌医の会全国協議会と高知土壌医の会（会長：山崎浩司氏）との共催で、「土壌病害の効率的防除」をテーマに、地域重要問題研究会が高知県民文化ホールで開催されました。高知土壌医の会会員38名のほか、高知県内外の農業関係者34名の参加があり、温暖地域での土壌病害への関心の深さが伺えます。「土壌微生物の種類・特性と生物性診断」（講師：日本土壌協会専門委員、元片倉コープアグリ技術顧問 野口勝憲氏）、「高知県における主な土壌病害およびその対策」（講師：高知県環境農業推進課専門技術員 西村太郎氏）、「HeSoDiMによる土壌病害の予防を支援するAIアプリ Heso+（ヘソプラス）」（講師：システム計画研究所 早川聡一氏）の講演が行われました。



土壌医の会全国協議会の助成事業として、土壌医の会会員以外を対象とした、土づくりに関する講演会や相談会が、埼玉県、群馬県、高知県などで、地域土壌医の会によって開催されています。





■株式会社クボタのご紹介

当社は1890年に鋳物業で創業しました。以降、「やればできる」「失敗を恐れるな」の信念で、日本で初めて水道管の国産化や農業の機械化を実現し、社会の発展に貢献してまいりました。

■クボタ土壌医の会のご紹介

- 設立理念 -

クボタ土壌医の会は、土づくりに関する知識や技術の維持・向上と指導力の一層の強化を図るため、会員相互の研鑽と交流を深めるとともに、会員の情報ネットワーク等を通じ現場の土づくりに課題解決力を高めていくことを目的として、2015年に設立されました。

- 取組 -

当社では、2015年の会の設立以前から、排水対策技術をはじめ、お客様ほ場における、土の特性も考慮した機械化提案をしてまいりました。設立後は、排水対策の実演をはじめ、各地で土壌医検定の受検や土づくりアドバイザー向けの研修も続けてまいりました。日々、試行錯誤を繰り返しながら、機械だけではなく、堆肥や緑肥等も利用して、土づくりにおける改善提案を行っています。

- 会員数 -

2023年4月時点で、当会の累計合格者数は827名、資格登録者数は611名（土壌医1名、土づくりマスター21名、土づくりアドバイザー589名）となっています。土壌医検定では化学性、生物性、物理性の知識を求められますが、当社で得意とするのは物理性の分野になります。物理性の知識を強化しつつも、化学性や生物性の基礎的な理解を促進するために、土壌医検定を役立てています。

クボタグループは、食料・水・環境を一体のものとして捉え、その課題解決に貢献すべく、これからも、「機械」「水・環境」のソリューション提案をしてまいります。



土壌医♥活躍中！

緑肥のことならお任せ

～小農ラジオでも大人気！～

雪印種苗（株）和田美由紀さん

【自己紹介】

雪印種苗株式会社で緑肥作物の普及を担当している和田美由紀と申します。入社して十数年、緑肥の開発や普及に携わってきました。2013年だったか 2014 年だったかに、初めて土壌医を受験しました。当時、日本土壌協会主催の研修会に私の上司が登壇するというので、かばん持ちとしてその研修会と一緒に参加した際に、「土壌医検定」のパンフレットを見たことがきっかけです。はじめは、力試しのつもりでしたが、当時の業務でも苦手としていた施肥管理の部分がうまく頭に入ってこず、受験前は学生以来となる猛勉強をしたのを覚えています。業務の中心は緑肥作物の提案や技術普及ですが、土壌医として学んだ知識があることで、緑肥だけでなくもっと広い視点で農家さんやお客さまとお話ができるようになったと実感しています。

【土壌医を取得して良かったこと】

名刺に“土壌医”と記載したことにより、明らかにネットワークが広がったと感じています。名刺交換の際には必ず話題になりますし、農林水産省の土づくり専門家リストにも掲載していただいていることで、それをきっかけにご連絡をいただくこともあります（実は、両総土壌医の会の会長様からの最初のコンタクトはそこからでした）。一方で、土壌医なのだからこれくらい分かるよね？という目に見えない圧をかけられる場面もしばしばあり、そのプレッシャーに負けないよう、日々研鑽せねばと思う今日この頃です。

【これから】

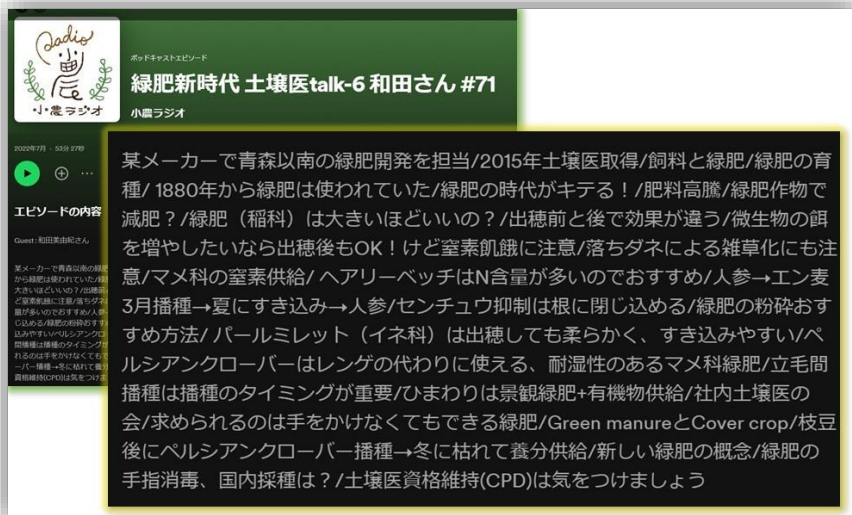
土壌医検定試験はとても良い制度だと思います。作物生産の基盤となる「土」の知識は、特定の誰かが知っていれば良いというものではなく、それに携わる人みんなが知ること、もっと生産性が上がり、さらには土地の保全にもつながっていくと思うからです。弊社社内でも、資格保有者が徐々に増えてきました。創業の精神に「健土健民」を掲げる我が社が発信するものすべての根底に、土づくりがあるということをもっと知っていただけるよう、これからも緑肥の普及を軸に活動してきたいと思っています。



土壌医の会など、様々なところで「緑肥」の講義をされています。ポッドキャスト「小農ラジオ」にゲスト出演された時も、わかりやすい説明が大好評でした。まだ聴いていない方、もう一度聞きたい方、何度でも聞きたい方は、下記 URL からどうぞ。

緑肥新時代 土壌医 talk-6 和田さん #71 - 小農ラジオ | Podcast on Spotify

<https://open.spotify.com/episode/1bE5LXYjdKlapouacvTdWb>



わかりやすい説明でたくさん
の質問に答える、シンポ
ジウムでの和田さん(12月
21日)。

土づくり推進フォーラムシンポジウム 2023年12月21日(木) 日比谷図書文化館大ホール

「地力向上を目指した緑肥作物の栽培実態と将来展望」をテーマに、4人の講師の方をお迎えして、お話をいただきました。会場85名とweb配信150名、あわせて235名の皆様のご参加があり、土づくりにおける緑肥への関心と期待の大きさを感じました。

演題と演者は次の通りです。

①「土づくりと減肥に役立つ緑肥の様々な機能とその活用」

農研機構 中日本農業研究センター 温暖地野菜研究領域
有機・環境保全型栽培グループ長 唐沢敏彦 氏

②「地力を向上させる緑肥の上手な使い方」

雪印種苗株式会社 事業本部
種苗グループ 和田美由紀 氏

③「ソルガム・エンバクを活用した

キャベツ・ニンジンのリン酸減肥栽培」
千葉県農林総合研究センター
土壌環境研究室 研究員 宮本昇 氏

④「ヘアリーベッチを用いた

キャベツ・長ネギ・エダマメの減肥栽培」
秋田県農業試験場 生産環境部
土壌基盤担当 主任研究員 中川進平 氏



引き続いて行われた総合討論でも、時間枠いっぱいには質疑応答がなされました。

気候変動が大きな問題となっている今だからこそ、目的に応じた緑肥選びで、品質や収量の向上プラス省資源・省力化ができるといいですね。緑肥活用の場面でも、アドバイザー、マスター、土壌医の皆さんの腕の見せ所になりそうです。リビングマルチ、カバークロップ、インセクタープランツ…緑肥利用の場は、土壌医の活躍同様にまだまだ増えそうです。

♥ 2023 年も残りわずか。風邪のシーズンでもありますので、どうぞ体調管理を万全に、新年をお迎えください。

